鬼怒と ホテルへ 行ったお話

お～
これがラブホテルか～

思ったより
普通の部屋なんだな

想像してたのと違う

もっとこう
南国の
リゾート的なものだと

そういうところも
あるかも知れんけど
高いんじゃない？

ここ
格安だし……

とりあえず
先にシャワー
浴びてくるね

は～い

シャ
ア
ア
ア
ア

あ～
ホントに
ゴム用意されてるんだ

早っ！

おまたせ！

シュバッ

ジャアアアア…

提督
タオル1枚になってたな

そうだよね
どうせすぐ脱ぐなら
下着なんて……

おまたせ…
!!

どう…かな？
やっぱ鬼怒にはこんなフリフリ似合わない
可愛いよ！
すごく…かわいい
うりゃあぁ♥
バッ！

提督
もうこんなにしちゃって
しょーがないなー♥
よだれまでたらしてるし…

ピクッ
ピクッ

う…
あ…

っっっう…

チロチロ

っ！
っ！

じゅっぽ♥
ん♥
んっ♥

じゅっぽ♥

ちょっ待っ…！
いきなり激しいっ！

なんか…
前したときより
うまくなってる…？

んふふ～♥

これも日頃の
訓練の賜だね♥

訓練？

頑張ったんだよ～
きゅうりで

モゴ
モゴ…

ボキッ

ボリ

ボリ

噛みちぎったりしない？
しないよ～
ガク
ガク
くに
くに
提督の大事な
おちんちんだもん
なで
なで
なで
くちゅ♥
くちゅ♥
しこ
しこ
ぐっ…！
っあぁ！
ぐりゅ
ぐりゅ
そんな
先っぽばかり！
♥！
ぐちゅっ♥
ぐちゅっ♥
やばいっ
もう！
じゅっぽ♥
じゅっぽ♥

イクッ！

!?

びゅるるっ

ドクッ ドク

じゅるるる

やったいっぱい出てる♥うれしいな…♥

んく… んく…

んん！

んんん～…！

はいっティッシュ！

アリガト…

ぺろぺろ

ぺろ…

なんで!?

今日は鬼怒が気持ちよくしてあげるの！

プチッ

ギシ…

ぷるぷる

これは！

むぎゅ…

ぱくッ

おっぱいではさまれるの…気持ちいいんだよね？

ずず…

ところで…

たっぷん♥

あぁ
乳圧すご…
気持ちいい…

たっぷ♥

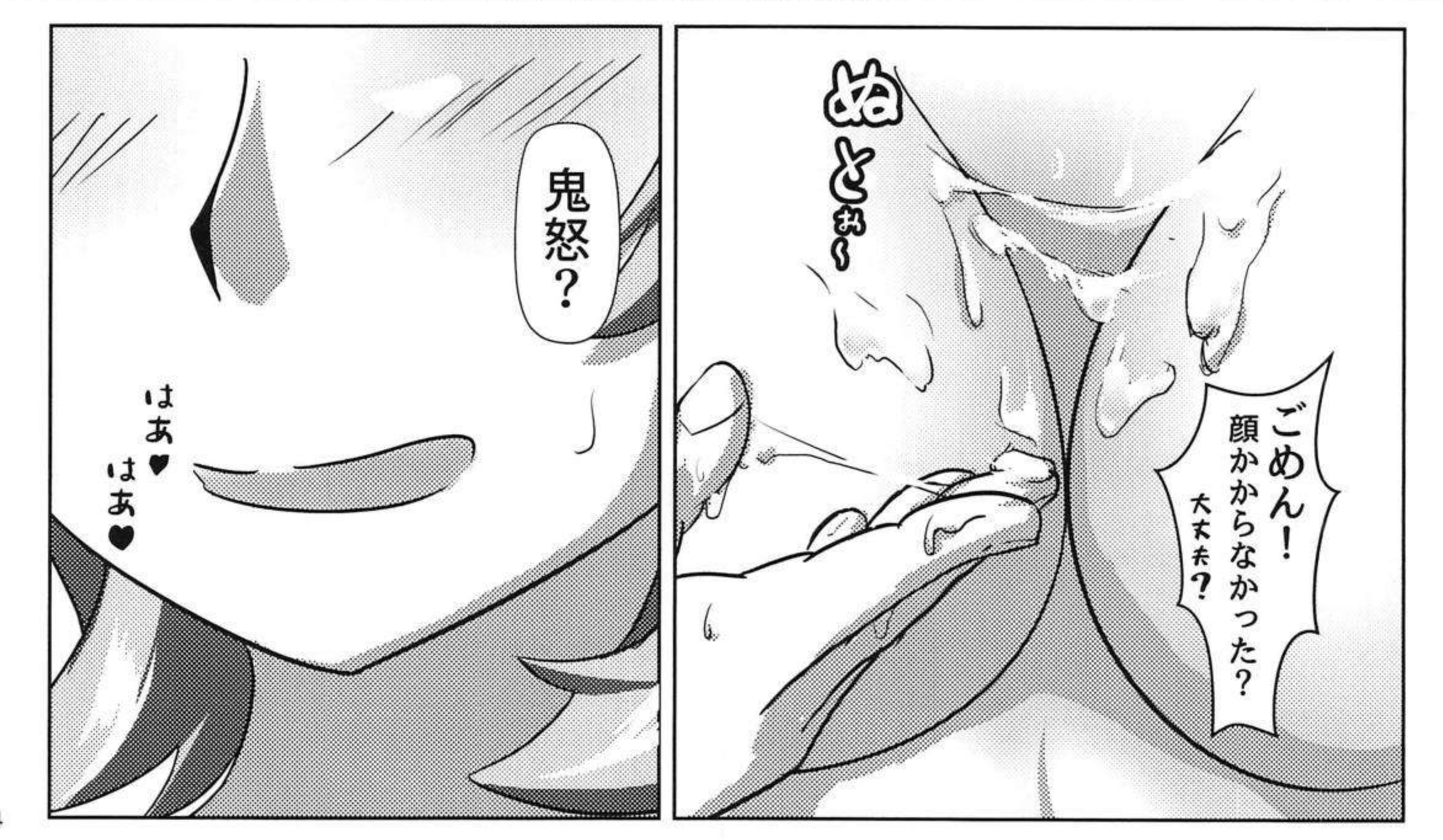
たっぷ♥

くちゅ

くちゅ♥

提督の顔見てると
やる気が出てくるなぁ♥

びく
びく
うおっ
またっ…
イクッ
ビュクッ
ビュルルル



シュル…

とりあえずすこし休憩しようか

あの…休憩を…

追撃戦だぁ…♥

くちゅ♥

ずずず…

ん…♥
入ったぁ…♥

はぁ♥

ん♥

っ！

ズ

ぷるっ♡

待って！
提督は動いちゃ
ダメ!!

ズッ

ズッ

そんなされたら
鬼怒が気持ちよく
なっちゃうよ！

はぁ♥

ゆっさ♡

気持ちよくなって
欲しいんだよ！

タプ♡

はむっ♡

やっ…あっ♡

ちゅ♡

ちゅ♥

ずちゅ♥

ぬちゅ♡

ぱちゅ

ぱちゅ

ギシ

ギシ

パン

パン

うく♥

うう…♥

はっ♥

ダメ 提督！
鬼怒 変になっちゃ・・・！
あ、あぁ♥

あ♥
あぁあぁあぁ♥

ズン！

ぐっ

どぴゅ！

ビュルルル

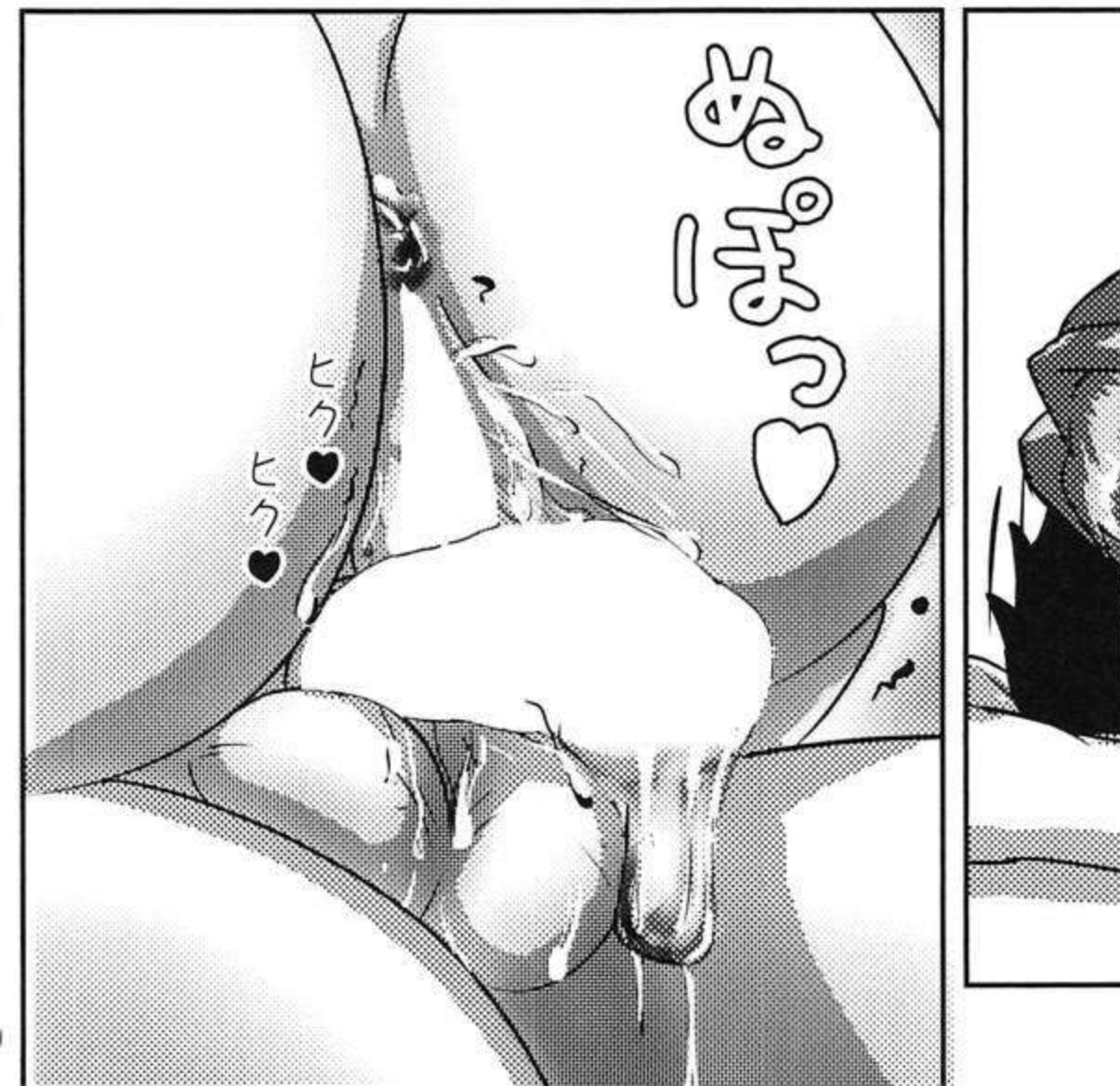
とぷ♥
とぷ♥

はぁ♥
はぁ♥

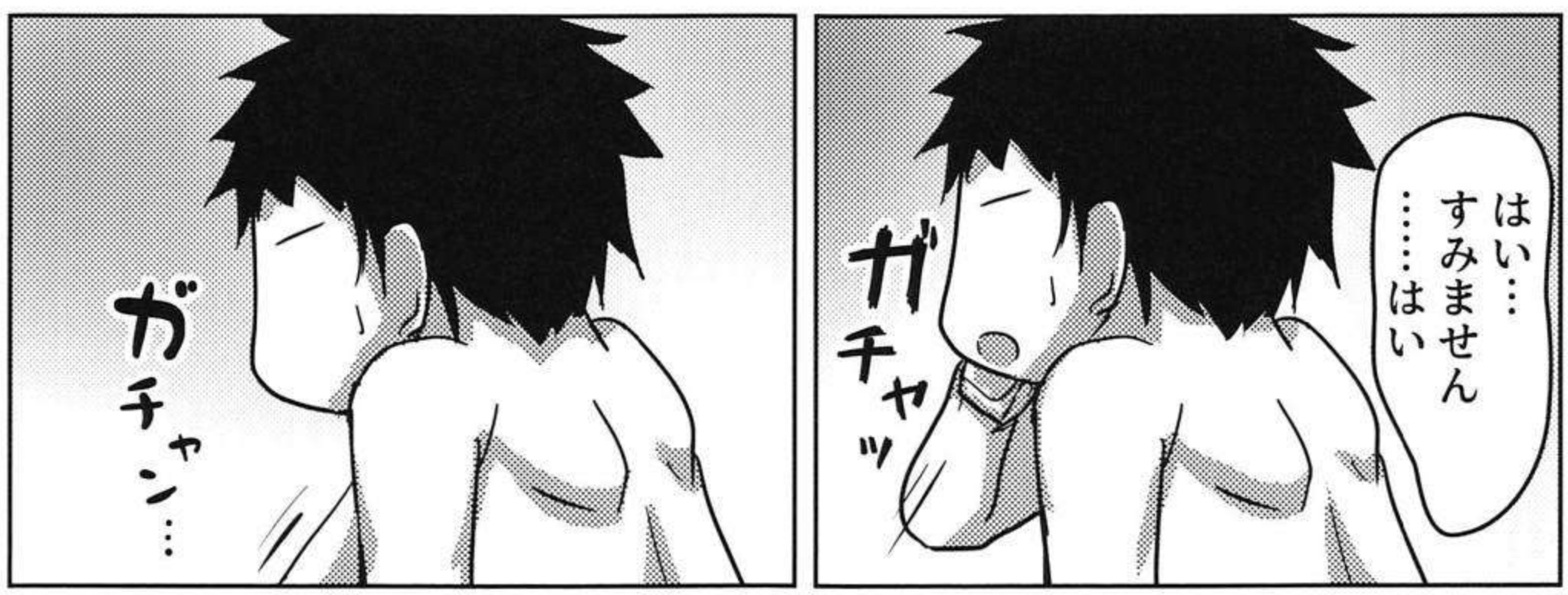
ぎゅ♥

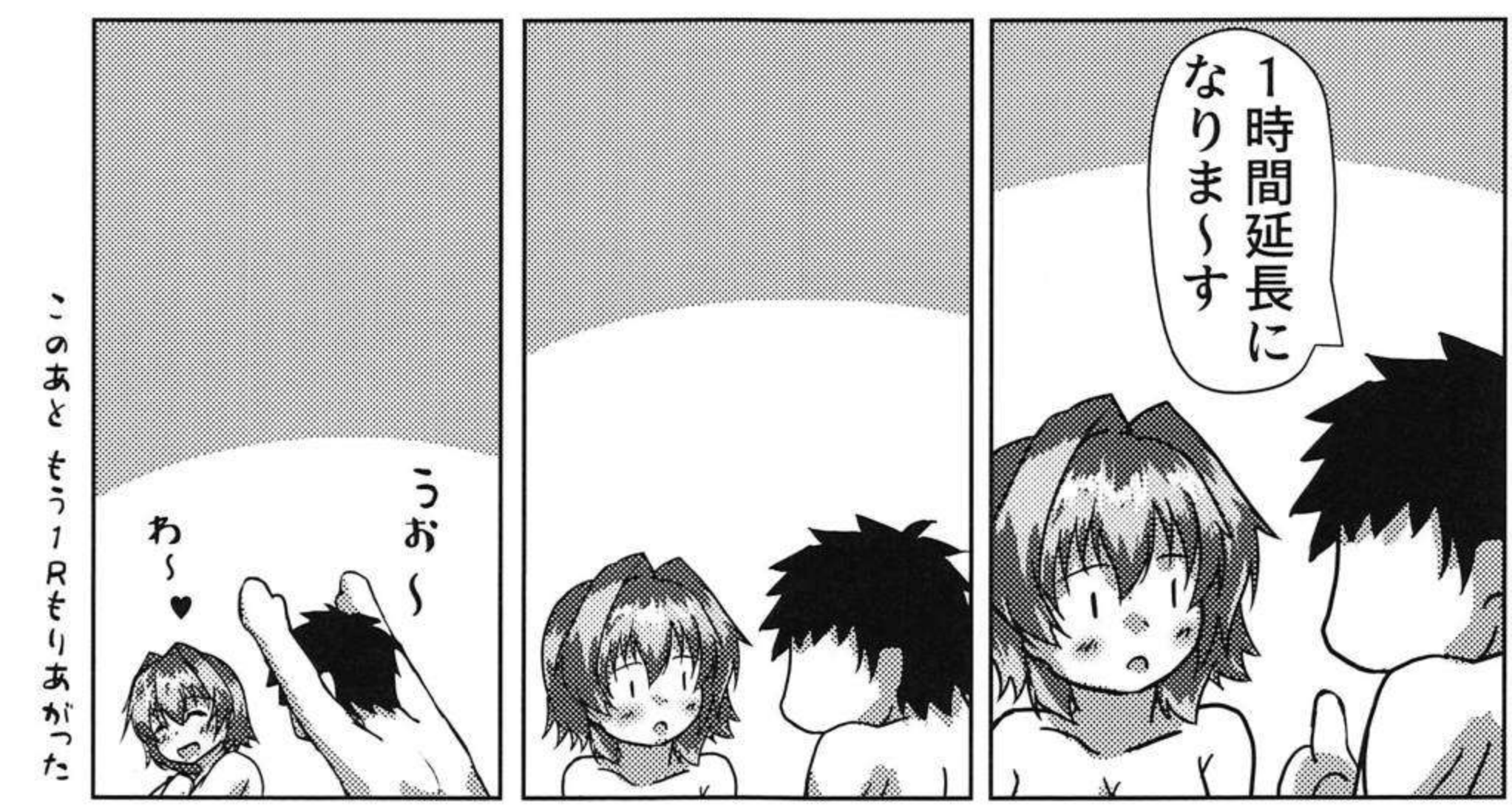
ちゅ♥

はぁ♥
はぁ♥


ぬぽっ♥
ヒク♥
ヒク♥

どさっ
ん♥
ん♥
ギシ…





このあと もう1Rもりあがった

ロケハンと称して1人でラブホに凸る男がいるらしい……
どうもyo-sukeです

鬼怒本2冊目になります
『鬼怒と○○なお話』という感じで続いていくようです

前回が初めてのたどたどしさを前面に出していたので
今回はそこから1歩前に踏み出すというお題になりました
途中、1歩どころか若干暴走気味になっていますけど
前回出来なかったことに挑戦してみたり
中破絵を見るに普段ノーブラなのに「デートだ！ホテルだ！」と
悩みながらも喜んでくれそうな下着をチョイスしてきたとか考えるととてもぐっときます

作業時間が1冊目よりも短かったため、ページ数も少なくする予定だったのですが
提督が一方的に淡々と搾り取られてるだけだったり
早漏気味だったりと気になるところがあったため
急遽、増ページして前回と同じページ数になりました
なお増えたページは余韻と事後描写に費やした結果早漏克服とはならなかった模様

同人活動を始めて約半年
前回と比べても絵の描き込みなど大分変わりました
絵柄なども含めてまだまだ模索中です
とにかくその時の自分に出せる全力でと思っていますので
次の機会がありましたらそのときはまたよろしくお願いいたします

『鬼怒とホテルへ行ったお話』
発行日： 2018年12月30日
発行　： 製作所Y
発行者：yo-suke
連絡先：seisakujo.y.yosuke@gmail.com
Twitter：https://twitter.com/8132_329
pixiv：https://www.pixiv.net/member.php?id=2754626
印刷所： 株式会社 栄光 様

この本はR-18です。18歳未満の方の閲覧は固くお断りいたします。
無断転載・複製・複写・インターネット上への掲載
（SNS・ネットオークション・フリマアプリ含む）は禁止です。

『鬼怒とホテルに入るまでのお話』

先日、めでたく結ばれた提督と鬼怒
二人は今、夜の街ホテル街へと向かっていた

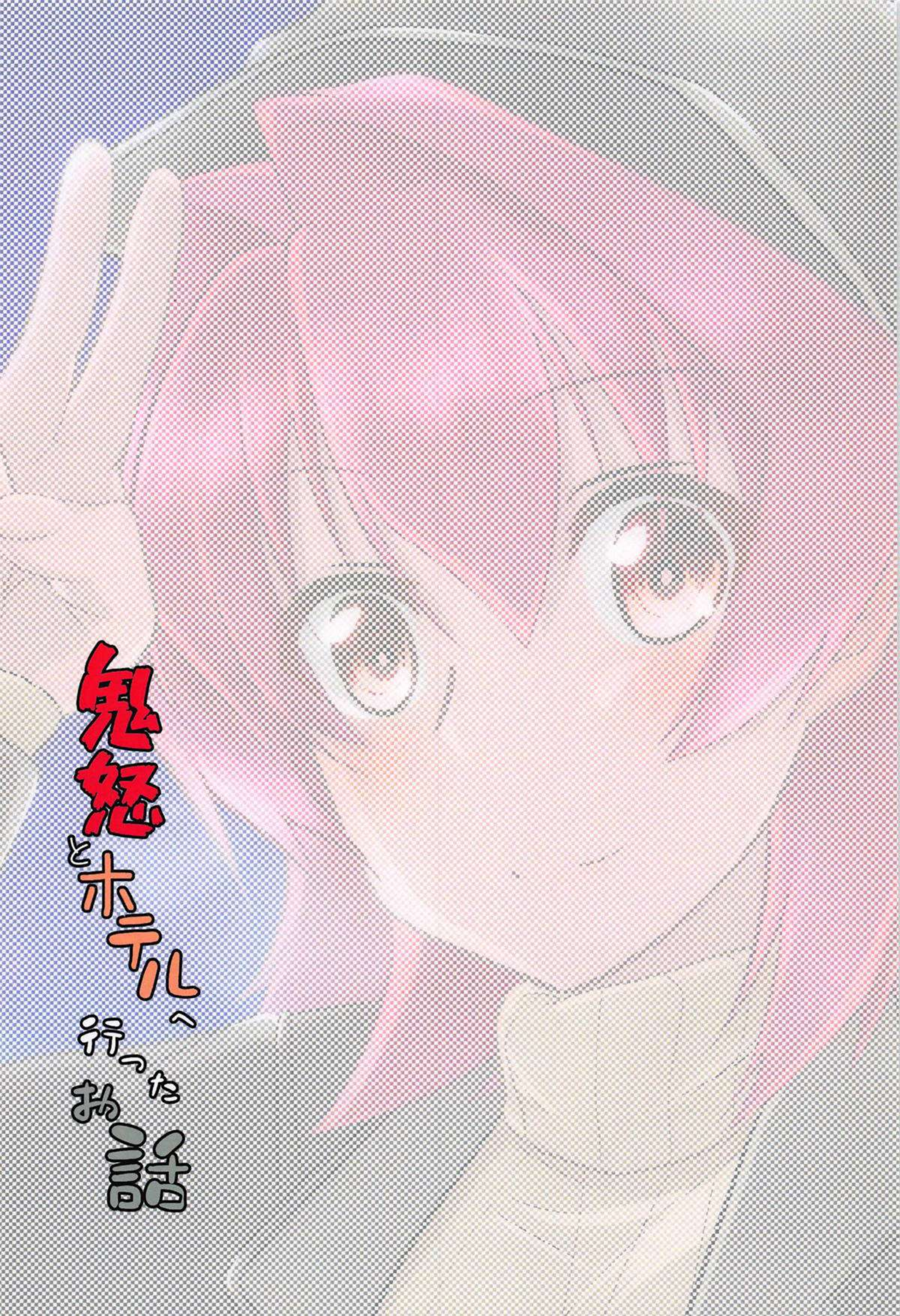
それが何を意味するのか鬼怒も当然理解しているのだろう。繋ぐ手に力が籠もる
妖しく光を纏う建物が迫り…通り過ぎる
「……提督、今の所だよね…」
ジト～っと視線だけを向け拍子抜けしたように言葉を漏らす
「い、今のは偵察だ…」
提督は強張った表情でぎこちなく口角を上げる
（提督も緊張してるんだ……）

回頭
手を繋ぎ直し改めてホテル入口へ向かう
進路微修正よし、目隠しの奥へ向かおうとする提督
しかし、繋いだ手がそれを許さない
「き、鬼怒？」
手を引かれ再び通り過ぎる入り口
「入るところ人に見られるのは…」
平静を装いつつも頬を赤くした鬼怒は言葉を濁す
少し冷静になり周りを見渡せばちらほらと人が目につく様になっていた

物陰から様子を窺う
街を行き交う人々、意に介さずホテルに出入りする人々
（どのカップルも自然に入っていく…）
思わず息を吐く鬼怒
一方、提督は腹をくくる
（そうさ、ここに来ている人たちの目的は一つ。何を恥ずかしがる事がある）
「行こう、鬼怒」
鬼怒も頷き、二人で前へと歩き出す
（堂々としていろ。むしろ見せ付けてやればいい、こんな可愛い彼女と一夜を過ごすのだと）
そして怪しい光の中、未知の妙域へと足を踏み入れる

『おぉ～…』
二人揃って声が出る
暗く狭い通路、裏まで回り込まなくてはならないフロント、普段見慣れぬ構造
いざ入ってしまえば周囲の目もなくなり好奇心が表に出てくる
キョロキョロと見渡すその姿は初心者丸出しだろう、実際二人共初心者なのである
経験はこれから二人で積んでいけばいい
そうして二人は手を取り階段を登っていく……

発行日： 2018年12月30日
発行　： 製作所Y
発行者：yo-suke
連絡先：seisakujo.y.yosuke@gmail.com
Twitter：https://twitter.com/8132_329
pixiv：https://www.pixiv.net/member.php?id=2754626


鬼怒とホテルへ行ったお話